

県知事 慰霊巡拝に参加



追悼のことを述べる三日月大造滋賀県知事

今回の巡拝は、県内各地から総勢36人の遺族が参加し、A班17人はレイテ島へ、B班19人はルソン島へと分かれて、それぞれの激戦地跡を訪ねて慰霊を行った。

三日月知事と野田議長は随行者とともに、4日目の11月4日からB班に合流し、元66兵站病院跡近くのワワダム、サンマテオ、ボソボソ村を遠くに見るアンチポ

戦争の記憶を風化させない

フィリピン戦跡慰霊巡拝

平成28年11月1日から6日までの6日間、一般財団法人滋賀県遺族会が主催するフィリピン戦跡慰霊巡拝が行われ、三日月大造滋賀県知事と野田藤雄滋賀県議長が4日と5日の二日間同行し、フィリピンの地に眠る英霊に慰霊と平和の祈りを捧げた。(2・4・5面に関連記事)

遺族の友

発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
滋賀県遺族会館
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会長
岸田 孝一

口などで遺族の皆さんと一緒にになってねんごろな慰霊を行った。サンマテオの「滋賀県戦没者の碑」前では、三日月知事が「在りし日の戦没者の皆さんに思いを馳せ、戦争の記憶と平和の尊さを次世代に引き継ぐ使命と、戦禍を二度と繰り返さないことを固く誓う」と、呼びかけた。また、友好親善訪問した小学校では、三日月知事が英語で児童にあいさつされると、会場は一層和やかに、平和ムードが大きく漂った。

5日目はA班、B班合流し、ルソン島カリラヤ日本慰霊庭園日本府建立の「比島戦没者の碑」前で、滋賀県遺族会主催の平和式典・合同慰霊祭が行われた。

式典は藤澤喜八郎滋賀県遺族会副会長・巡拝団長の式辞に続き、三日月知事野田議長から追悼のことばが述べられ、遺族代表2人からの呼びかけ、平和宣言参加者全員による献花へと続き、厳しい暑さの中にもかかわらず厳粛に執り行われた。

滋賀県のトップが海外での慰霊に参加されたことは、参加遺族の皆さんから望外の喜びであると多くの声が出るとともに、戦争の記憶を風化させてはいけない気持ち、英霊への哀悼の誠、感謝の心がなお一層深まり、平和の希求を今以上に力強くした旅となった。

（英霊顕彰委員会委員長 田中 靖俊）

新年のご挨拶



滋賀県遺族会長 岸田 孝一

新年おめでとうございませう。新しい年、平成29年、西暦2017年、紀元2677年を家族お揃いで、また健康でお迎えになられたことを、心より共に喜び感謝させていただきます。大東亜戦争が敗戦終結して、

早くも72年となりました。若くしてこの世を去らなければならなかった英霊の思いを噛みしめます時、どんなに無念な思いをされたことだろうと、何とかがしてその思いを和らげることができないものだろうか、いろいろなと考えておりました時、山本賢司滋賀県護国神社宮司が英霊顕彰館の建築を計画してくださり、平成28年10月に開館されました。

その中で、ご兄妹の方が家族お揃いで顕彰館を訪れられ、「これで兄ちゃんも永遠に護国神社にお祭りいただける」と、

この一年も全戦没者に少しでもご安心いただける遺族会となれますように活動の続けたいと思っておりますので、ご理解とご協力を切にお願い申し上げます。本年も良き年でありますことをお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

（総務企画委員会委員長 竹井 昌夫）

滋賀県戦没者遺族大会

大会スローガン 国会へ



挨拶をする岸田孝一滋賀県遺族会長

平成28年9月25日、平成28年度滋賀県戦没者遺族大会が近江八幡市文化会館で開催され、県内各地から約800人の遺族会員が参加した。大会では平成28年度の表彰式並びに次世代委員長の挨拶が行われ、野田議長が「戦跡訪問体験発表があり、大会宣言・決議が承認された。今回も青年部が大会の運営に尽力、澤本長俊青年委員長が司会進行を務めた。第一部は開会のことば、国歌斉唱、英霊に対して黙祷、岸田孝一滋賀県遺族会長の挨拶に続き、永年にわたり戦没者遺族等に対する援護事業に貢献された方々を表彰。滋賀県知事表彰4人、滋賀県遺族会長表彰23人が受賞され、被表彰者を代表して、近江八幡市の杉浦俊雄さんから謝辞が述べられた。続いて三日月大造滋賀県知事代理の池永肇副知事、野田藤雄滋賀県議長がより祝辞をいただき、富士谷英正近江八幡市長が歓迎の言葉を述べられた。

次に次世代戦跡訪問体験発表では、鹿児島県知事を訪問した近江八幡市立岡山小学校6年吉田健太郎さん、岡田翔太郎さん、徳田直登さんが岡田大和さんの4人が各々の感想を発表。知覚特攻平和会館や富屋食堂で感じた「国や家族、大切な人のために自ら命を捨て、出撃するなんて自分ではできない、怖い」等の思いが素直に伝わり、好評であった。

この発表については、後日、岸田会長が滋賀県へお礼に伺った際、池永副知事から、研修を実施している滋賀県遺族会とともに発表者にも賛辞を述べられたとのこと。

最後に高木健三近江八幡市遺族会長が大会宣言・決議を朗読し、会場の全員が拍手で承認し、採択された。

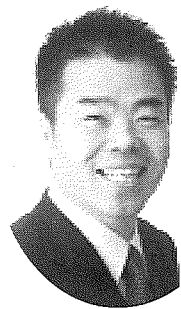
第二部は近江八幡市安土町老人クラブ連合会の24人による戦中戦後の混乱期を思い出させ涙なしでは見られない劇「波瀾万丈」が上演された。

大東亜戦争末期に国より赤紙が届き、お国のためにと出された若い兵士の出征を、妻子や父母が見送る場面。24歳の若者が神風特攻隊に志願し、家族との別れに遺言状を読む場面。天皇陛下の玉音放送をひざまずき、泣きながらラジオを聞き入る人々。敗戦により混乱した中を舞鶴港で我が子を今か今かと待ち続ける母親（岸壁の母）との対面を果たす場面など、当時の服装での上演でもあり、懐かしさ、昔のことをいろいろと思い描くひと時となった。

そして、今大会で採択したスローガンの「戦没者の未帰還遺骨の収集を早期に進めるとともに、遺品の売買を禁止する法律を制定し、戦没者の貴重な遺品を早期に遺族に返還するよう働きかけること」は後日、NHK全国中継があった参議院予算委員会、有村治子議員が自由民主党を代表して質問に取り上げ、「滋賀県遺族会では…」と、今回の内容が放映され、翌日の全国各紙に掲載された。平成29年度予定の遺族大会で、国会質疑を踏まえた有村議員の講演を期待している。

今大会は、地元近江八幡市遺族会の協力等により、それぞれの発表や演出の費用を節約し、自前の努力を重ねた、従来と違う新たな大会運営となり、成功裏に終了した。

新年のご挨拶

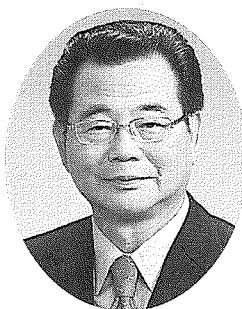


滋賀県知事
三日月 大造

明けましておめでとうございます。皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私は、平成28年11月3日から5日まで、滋賀県遺族会の皆様と同行させていただき、フィリピンのマニラ東方山地での戦跡慰霊巡拝およびカリラヤでの平和祈念式典・合同慰霊祭に参加いたしました。

激戦地であった現場で、祖国や家族を思いながら無念にも戦没された方々に対して、県民を代表し、謹んで哀悼の誠を捧げてまいりました。



日本遺族会会長
参議院議員
水落 敏栄

ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。昨年は熊本地震、鳥取地震や、台風などの自然災害により多くの地域で甚大な被害が発生しました。被災され、いまだ不自由な暮らしを余儀なくされている皆様に心よりお見舞いを申し上げます。今後とも政府・与党一丸となって、復旧復興に全力を挙げて参ります。

昨年は天皇皇后両陛下のフィリピンご訪問、オバマ米大統領の広島訪問、安倍晋三総理の真珠湾訪問など、世界の恒久平和を願う出来事が沢山ありました。中でも天皇陛下が象徴としてのお務めについて、直接国民にお話になられたことに、強い衝撃を受けました。陛下のお言葉を拝聴し、改めて戦没者とその遺族

現地に身を置き、「この地で命を落とされたのか・・・。どんなに辛く苦しい戦いであつたらうか・・・。どんなに暑くもじい行進であつたらうか・・・。どんなに痛かつたらうか・・・。」と様々な思いが巡りました。懐かしい滋賀県の風景を思い浮かべられたであろう、滋賀県に残してきた親に、妻に、子に会いたかつたらう戦没者の方々に思いを致し、静かに手を合わせました。

「お父さん・・・」
この地でお父様を亡くされた方、ご遺族の皆様のおふれる思いの詰まった戦跡での呼びかけに、涙が止まりませんでした。そして、戦争の記憶を風化させることなく次の世代に語り継ぐ使命の重さを心に刻み、世界平和への不断の努力と滋賀の風土を守り継いでいく決意を新たにいたしました。

一昨年は沖縄で、昨年はフィリピンで、
骨が海外においてそのままになっている現状を、この法律の報道で知られた方もおられるでしょう。

私は、こうした現実を報道機関や学校教育を通じて伝えることが、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えるきっかけになると考えており、この法律にはそうした意義も含まれると思っております。そして、ご遺骨の収集が推進されるよう、日本遺族会はこれからもあらゆる努力を重ねて参ります。

最後に、昨夏の参議院選挙において、3期目の当選を果たすことができました。加えて安倍改造内閣において、文部科学副大臣・内閣府副大臣を拝命いたしました。改めて皆様に頂戴しました温かいご支援を深く胸に刻み、与えていただいた使命、職責を全うすべく、真に豊かで安定した平和国家構築のため、教育施設の充実、推進努力を重ねて参りますので、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

滋賀から出征され戦没された方々への慰霊・追悼を重ねてまいりました。また、この度のフィリピン戦跡慰霊巡拝を通して、現地に行かないとわからない、遺族の皆様と一緒しないと共有し得ない多くのことを感じ、学びを深めることができました。私が現地に身を置き、見て、聴いて、祈り、そして胸に刻んだことを、今年の1月3日発行の県広報誌「滋賀アラスワン」をはじめ、今後も様々な機会をとらえて広く県民の皆様にお伝えしてまいりたいと考えております。

結びに、改めて戦跡巡拝の機会を与えていただきました滋賀県遺族会の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、貴会の今後ますますのご発展と、ご遺族の皆様方のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。
里の秋 みたしと歌う みたまかな
(拙句 平成28年11月4日 マニラにて)

滋賀から出征され戦没された方々への慰霊・追悼を重ねてまいりました。また、この度のフィリピン戦跡慰霊巡拝を通して、現地に行かないとわからない、遺族の皆様と一緒しないと共有し得ない多くのことを感じ、学びを深めることができました。私が現地に身を置き、見て、聴いて、祈り、そして胸に刻んだことを、今年の1月3日発行の県広報誌「滋賀アラスワン」をはじめ、今後も様々な機会をとらえて広く県民の皆様にお伝えしてまいりたいと考えております。

結びに、改めて戦跡巡拝の機会を与えていただきました滋賀県遺族会の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、貴会の今後ますますのご発展と、ご遺族の皆様方のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

結びに、ご遺族皆様のご健康と平成29年がより良い年でありますことを心から祈念しご挨拶いたします。

滋賀県遺族会

副会長 川嶋 之生

ご遺族の皆様には、ご家族お揃いで新しい年をお迎えになられたこと、大変喜ばしく思います。

昨年は、皆様のご理解とご協力をいただき、各事業が成功裏に終えることができ、厚くお礼申し上げます。
昨年を振り返りますと、天皇皇后両陛下が激戦地フィリピンを慰霊巡拝され、両陛下が常に戦没者とその遺族に対して、常に心を寄せていただいていることに感謝するばかりです。

また、平成28年5月27日に米国のオバマ大統領が広島を訪問され、原爆死没者慰霊碑に献花と平和記念資料館訪問。安倍晋三首相が12月にハワイ真珠湾を訪れ、両国の戦没者の慰霊を行う等国の指導者が世界の恒久平和を希求する姿勢は世界の人々に大きな影響を及ぼすことと思ひ、戦争の悲惨さ、平和の尊さが永久に続くよう願っております。
滋賀県においては、平成28年11月に三日月大造滋賀県知事、野田藤雄滋賀県議会議長がフィリピンに我々の仲間と慰霊巡拝に参加いたしました。

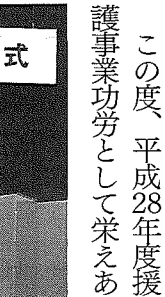
ただき、遺児の呼びかけなどに感激され、平和の尊さを感じた慰霊巡拝でありました。輝かしい平成29年を迎え、遺族会としての今後の活動は後継者の育成です。幸い滋賀県遺族会では青年部が組織化されました。しかしながら、我々子の意識と孫世代の意識の違いがあります。滋賀県護国神社の英霊顕彰館が建設され、若くして戦死された方々の写真が掲示されていますが、その年齢を見て青年部の皆さんはどう思われているのでしょうか。平和で豊かな時代に育った世代が、戦地での飢えと病氣、死と隣り合わせで戦った時代を一寸でも理解を深めるよう、青年部として靖國神社参拝、遊就館での研鑽、講師を招いての研修会等を企画されており、その活動に期待しております。

光輝ある遺族会はこれから先も永く続いていき、二度と戦争を起こさず平和な現実を目指すと、命の尊さ、世界恒久平和の実現を目指すことが普遍的テーマであります。
本年も会員皆様のご理解ご尽力をいただき、更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本年がより良い年でありますことを心からお祈り申し上げます。

厚生労働大臣表彰を受賞

滋賀県遺族会

副会長 大長 弥宗治



この度、平成28年度厚生労働大臣表彰を受賞した。

この表彰は、遺族会員皆様の温かいご支援と、何よりも陰で支えてくれた家族の賜でございます。心から感謝し、お礼を申し上げます。
今後先の大戦で尊い命を犠牲にして、祖国の安泰と家族の平安を念じつつ散華された父たちの

父・母への感謝

御心をしっかりと守り、微力ではございますが英霊顕彰活動が続けて参ります。そして、二度と再びあの忌まわしい戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、戦争を知らない次世代の方々に正しい歴史認識と、平和の尊さをしっかりと繋いで行くことの務めでございます。この賞を戦没した父に捧げ、共に喜びたいと思っております。
今後ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございます。

英霊顕彰 県民への啓発を要望

自由民主党議員団とのつどい

平成28年12月4日
アヤハレークサイド
ホテルにおいて、滋
賀県遺族会役員、郡
市町遺族会長など
100余人参加のも
と、「平成28年度自
由民主党滋賀県国会
議員・県議会議員と
のつどい」が開催さ
れた。

一 郎衆議院議員・自
由民主党滋賀県支部
連合会長と佐野高典
自由民主党滋賀県議
会議員団代表から挨拶
をいただいた。

では、郡市町毎に分
かれて国会議員や県
議会議員と遺族会員
が一つのテーブルを
囲み語り合い、盃を
交わした。

今回のつどいは、
夏に行われた参議院
議員滋賀選挙区で
小鐘隆史氏が見事に
初当選された祝福
ムードが残り、参議
院議員比例代表全国
区の水落敏栄参議院
議員・日本遺族会長
の三選と合わせて、
遺族会の結束状況を
評価する言葉が発せ
られた。

田邊昭男総務企画
副会長の閉会のこ
とにより、和やか
な議員団との集いは
閉会となった。

今回の主要事業等
の要望事項は次のと
おりである。

（広報 田中正彦）

澤本長俊青年委員
会委員長が司会を担
当し、山川芳志郎総
務企画部会長の開会
のことばで始まり、
岸田孝一滋賀県遺族
会長の挨拶、上野賢

事項は大長弥宗治滋
賀県遺族会副会長が
要望書を朗読し、滋
賀県選出・出身自由
民主党国会議員や自
由民主党滋賀県議会
議員の皆さん全員か
ら挨拶と要望事項に
対する回答をいただ
いた。

懇談会・意見交換

岸田孝一滋賀県遺
族会長の挨拶に続き、
的場恵美子女性部会
長（副会長・日本遺
族会女性部担当）が
「女性部は遺族会の
中心的な役割を担っ
てきた。女性会員の
高齢化が進む中、本
会組織の要と認識す
ると共に、次世代へ
の継承を重点的に考
え、今後も一層充実
を図り、正しい歴史
認識の下、青年部の
皆さんとどのように
活動して行くかが大
きな課題である。各
地域におかれまして
も遺族会長をはじめ
として、女性部・青
年部が何ごとも共有
し、組織活動を推進

していただきたい」と
と挨拶。
午前の部は、畔上
和男日本遺族会専務
理事に「日本遺族会
の現状と情勢」と題
して講演をいただいた。
水落敏栄日本遺
族会長の中央での動
き、特に後継者問題
特別弔慰金、婦人部
の歩み等詳しく話し
ていただいた。「戦
後71年の新たな一歩
を踏み出し、天皇皇
后両陛下がパラオ・
ペリリュー島やフィ
リピンを訪ね、激戦
地跡で献花・拝礼さ
れたことは、英霊と
遺族のことを思い、
心を痛めてくださっ
ての訪問であった」と

と述べられた。
質疑応答では、大
西初枝さん（竜王
町）は、ソロモンの
話を聞き、亡き父の
戦死した地で遺骨取
集後、その足で千鳥
ヶ淵戦没者墓苑に
行ったが、「今まで
に総理大臣の千鳥ヶ
淵戦没者墓苑参拝は
あったのか」と質問
された。

また中村はるさん
（東近江市）からは
特別弔慰金受領の件
について、青年部の
林祐美子さん（守山
市）は、他府県の青
年部活動の状況につ
いて質問を行い、そ
れぞれにつき分かり
やすく説明を受けた。

昼食後のアトラク
ションは、長浜市の
「六ちゃん会」の皆
さんによる寸劇。女
性委員会の皆さんも
エキストラとして飛
び入り出演！パワー
の溢れる名演技で、
会場は大きな笑い
っぱいで楽しんで
いただいた。

その後、國松善次
滋賀県遺族会相談役
から「自転車で全国
護國神社の参拝を終
えて」と題した講演
を拝聴した。「この
参拝は、英霊に感謝
と平和祈願が目的で
あったが、自然や人
との触れ合いがあり、
学ぶことも数多く
あった。現在の教育、

憲法の問題も含めて、
戦後生まれの人たち
に今以上に語り
継ぎ、真剣に行動す
るべきである」と結
ばれた。私たちの仲
間で78歳という高齢
の元知事が、全国の
護國神社を自転車で
参拝されたことに会
場からは温かい拍手
がわき上がり、ご苦
労様でしたと感謝申
し上げた。

最後に、川嶋之生
副会長から事業報告
があり、辻成子女性
委員の閉会のことば
で無事終了した。
（女性委員会
委員長
重田美津子）

女性研修会

青年部と共有し活性化を



挨拶をする的場恵美子女性部会長

平成28年10月13日、
滋賀県遺族会女性研
修会が滋賀県立男女
共同参画センターで
開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

開催された。晴天に
恵まれ、県下各地よ
り213人（内男性
役員30人）が参加。

| | | | |
|-------|-------|-----------|----|
| 衆議院議員 | 滋賀県議員 | 明健 | 岩田 |
| 同 | 同 | 弘一 | 佐田 |
| 同 | 同 | 清博 | 村田 |
| 同 | 同 | 明三 | 吉富 |
| 同 | 同 | 健裕 | 高小 |
| 同 | 同 | 誠一 | 加藤 |
| 同 | 同 | 茂久 | 村島 |
| 同 | 同 | 男子 | 西川 |
| 同 | 同 | 二隆 | 村島 |
| 同 | 同 | （敬称略・順不同） | |

◆滋賀県護國神社 英霊顕彰館だより◆
今、平和があるの
は、戦ってくださった
方々が、いらっし
やるお陰です。英霊
に感謝、私はもつと
歴史を学んでいきま
す。
（吹田市女性 28歳）
お参りさせていた
だき、心がすっきり
しました。ありがと
うございました。
（竜王町姉妹 77歳、74歳）
戦没の命日に参拝
しました。
（日野町の遺族4人）
彦根市遺族会員約
40人が、大晦日から
元旦にかけて、護國
神社境内を焦がすか
がり火準備の奉仕を
行った平成28年12月
14日は、英霊顕彰館
開館から70日目を迎
えた。山本大司禰宜
は「毎日約10人の
方々が来館されてい
ます。遺影写真の掲
揚スペースはまだま
だ十分余裕がありま
すので、できるだけ
早い時期に多くの掲
揚申込みをお願いし
たい」と語っていた。
来館者の感想ノー
トには、それぞれ思
いの籠ったコメント
が記載されていたの
で紹介する。
（広報委員長
原 幸男）

靖國参拝の短歌・俳句募集
（趣旨）
今年も3月16日から18日、県内各地から50
0人余が2班に分かれて靖國神社に昇殿参拝し
ます。参拝者に、その思いを書き綴っていただ
くため、靖國参拝の短歌・俳句を募集します。
（課題）「靖國の旅」に限定
（応募用紙）
参拝往路新幹線の中で配布する参加者名簿
冊子に挟んで、参拝者全員に渡します。応募者
は、応募用紙を切り取ったうえで、郵送またはF
AXで応募
（応募先）短歌2作品、俳句2作品まで
（応募作品送付先）
滋賀県遺族会事務局気付け・広報委員会宛
郵送またはFAX送信
（締め切り日）平成29年4月10日
（発表）
機関誌「遺族の友」第254号（平成29年6
月）発行に掲載します。
（選者）
短歌選者：磯崎啓氏（米原市）
歌誌「青垣」選者
しがよみうり文芸短歌選者
俳句選者：寺村しげる氏（彦根市）
元彦根俳遊館館長
俳遊館入門講座講師
総務企画部広報委員会
（お問い合わせ先）

おひさしです。久しぶりの更新です。...

「おひさし」です。久しぶりの更新です。...

「おひさし」です。久しぶりの更新です。...

「おひさし」です。久しぶりの更新です。...

「おひさし」です。久しぶりの更新です。...

「おひさし」です。久しぶりの更新です。...

「おひさし」です。久しぶりの更新です。...

「おひさし」です。久しぶりの更新です。...

比 野の夕

野 隆 隆

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

祭のせむぎまひのせむぎ

中田 知雄 知雄 知雄 知雄

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...



「フイロの祭典」実行委員会

毎年の実施に野の夕

野 隆 隆

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

久しぶりの更新です。久しぶりの更新です。...

野の夕の祭典

野 隆 隆

平成28年11月1日～6日

特集 フィリピン戦跡慰霊巡拝

心に3カ所の戦跡巡拝と、地元
の小学校を親善訪問された。翌
5日は、A・B両班合同慰霊祭
に参列され、式辞に続いて三日
月知事・野田議長の追悼のこと
ばと参列者遺族の呼びかけ、そ
の後追悼法要が行われ、厳粛の

いただいた。
我々遺族も高齢になり、この
事業を続けて行くのは限度があ
り、なるべく早期に青年部に引
き継ぎ恒久的に実施されること
を期待するものである。

感無量のカンギポット慰霊祭

長浜市 浅見 勝也

滋賀県遺族会の「フィリピン戦跡慰霊巡拝」に、数年前より熱
心にお誘いいただいておりましたが、何かと他の行事等と重なり
行けず終いでした。今回ようやく万障繰り合わせて参加するこ
とができました。

初日は、関西国際空港で結団式の後すぐに出発です。私のA班
は、フィリピンのマニラを経由してレイテ島まで移動し、翌日か
らレイテ島内の各戦跡で慰霊祭を行うこととなりました。

2日目午前は、マッカーサー元帥上陸のレッドビーチ見学の後、
パロ十字架山、リモン峠で慰霊祭が厳かに進められ、巡拝者から
それぞれ思いを英霊へ呼びかけられました。

午後には雨の中をカンギポット山近くまで到着し、3回目の慰
霊祭がカンギポット慰霊碑前で行われました。このカンギポット
山中は、私の祖母の弟、浅見浅男（当時28歳、陸軍伍長）が、昭
和20年3月1日に戦死した場所です。祭壇に本人の位牌を置き、
遺影写真を飾り、巡拝者を代表して私が「呼びかけの言葉」を述
べさせていただき、日本より持参した「琵琶湖の水」を慰霊碑に
かけさせていただきました。最後に献歌「赤とんぼ」を全員で
合唱いたしました。「71年目にしてやっと身内が来てくれた」と、
祖母の弟も喜んでくれるものと思います。私にとって感無量のカン
ギポット慰霊祭となりました。

その後、オルモック市内にある「平和の碑」前で4回目の慰霊
祭を行いました。

3日目は、レイテ島湾内の船上慰霊祭予定でしたが雨天のため
中止となりましたので、オルモック湾を臨む海岸で慰霊祭を行
いました。その後、国際友好親善として、公立の「リモン小学校」
を表敬訪問し、現地の250人を超える元気な児童たちとのふれ
あいの場をつくり、文具やお菓子など土産を手渡してきました。

来ましたよ」と、今まで一度も
呼んだことのない言葉に感動し
て、同席している私たちも胸に
迫る感動で目頭が熱くなる思い
に、幼い時から同じ環境で育つ
た遺族の仲間と共通の感動を覚
えました。

と感謝。これが当委員会に与え
られた使命かと感じて、今後と
も頭影を継続して行くことを身
をもって体験しました。このこ
とを、今回も参加された皆様と
ともに念願がかなうように致し
たいと思っています。

午後には、飛行場跡のあるブラウエン、日米両軍で激しい戦いの
ありましたドラグのそれぞれ慰霊碑前で慰霊祭を行い、延べ7回
のレイテ島に眠る数多くの英霊を慰霊させていただきました。

4日目は、レイテ島からバスで、戦後補償で日本企業が施工し
た橋を通ってサマル島に渡り、2カ所の慰霊施設を訪ねました。
飛行機の出発時間が遅れましたが、夕刻にはレイテ島を後にして
マニラに到着し、マニラ市内ホテルでB班の皆様と合流して会食
を共にいたしました。

5日目は、天気にも恵まれたなか、マニラからバスでラグナ州
カリラヤに向かいました。同地に建立されている「比島戦没者の
碑」前において、滋賀県遺族会主催による平和式典及び慰霊法要
が、三日月大造滋賀県知事、野田藤雄滋賀県議長や随員の滋
賀県職員皆様の出席のもと、それぞれ式次第に則り厳粛に執り行
われました。

約2時間という長時間の式典・法要でしたが、私たち巡拝団一
同のフィリピンでの最後の慰霊行事であり、無事盛大に厳粛にお
こなわれ、フィリピン及びその周辺で亡くなられた英霊の皆様へ、
私たちの恒久平和を願う思いを伝えることができたことと確信い
たします。

最終日は、午前中にマニラ市内の各所を訪れ、午後にはフィリ
ピンを出国、夜には関西国際空港に無事到着し、そこで解団となり
ました。

今回初めての参加でしたが、皆様のお世話になり、現地で戦争
の悲惨さ、平和の尊さを改めて学ぶことのできる貴重な体験をさ
せていただきました。また祖母の弟の遺骨代わりにと、レイテ島
の小石をいくつか持ち帰ってまいりました。

これを機に、若輩微力ながら滋賀県遺族会の諸事業になお一層
参加し協力してまいりますので、今後ともご指導の程宜しくお願
いいたします。

甲良町 上野 正之

父親については、顔も知らないまま抱かれた日数もわずかで
す。私は昭和18年（1943）7月11日誕生、父親は昭和20年
4月11日フィリピンルソン島マニラ市方面で戦死。11日とい
日は不思議な糸でつながっており、大切に心の隅に刻んでいます。
終戦後、祖母と母親に育てられた年月を回想すると、いつも
胸中であふってきたことは、祖母や母親は一人息子を頼りに自
分を育ててくれたことです。現代のような物資の豊かな時代と、
母親や祖母の背中を見てきた生活と重ね合わせると、苦勞して
育ててくれた祖母や母親に対する「恩」という言葉は決して忘
れることができません。「海より深い母の恩」「山より高い父の
恩」という言葉をかみしめています。参拝に持参した父の凛々
しい毅然とした、軍服姿の写真の顔を見て、上野家を守り存続
しなければ、父に申し訳ないと新たに思いました。

ご縁あって、3年前に続いて2回目の慰霊参拝をさせていた
だくことが出来ました。前回は同時期で、ミンダナオ島やレイ
テ島では台風の通過直前に帰国した思い出として残っています。
今回は「戦跡慰霊の旅」に記載されているマニラ東方戦闘経過
の戦歴を熟読すると、父親が部隊と共に劣悪な山河を行進した
地域に近づきましたら、感慨無量で合掌し胸が熱くなりました。
劣悪の厳しい環境の中を飢えと体力の消耗の中を行進し、最
後に父は何を母親や祖母に言いたかつたのでしょうか。

父親の死亡区域がやっと判明し、もし、「生きていてくれた
ら」と熱き思いとなり、慰霊祭の「呼びかけ」には涙が止まら
ず言葉が詰まりました。「・・・お父さん正之です。出てきて
ください。聞こえたら返事してください」と。

今回は、滋賀県護国神社の英霊顕彰館へ展示させていただ
いた写真の写しを慰霊祭の参拝に持参させていただきました。
凛々しい父親の写真は祖国日本を護るため軍人として、誇りあ
る尊敬できる姿であり、改めて上野家の名に恥じない生活をせ
よと、教えられているように思いました。

父親の体験や、戦後苦勞して育ててくれた母や祖母の教えを、
家庭教育で伝承すること、戦争と平和について、地域で啓発し
ていくことが「生かされている」自分の責務であり義務と思っ
ています。

今回も前回と同じガイドの「ヒデコさん」の魂のこもった、
戦歴の説明は訪問して心に残りました。・・・今回は、ご縁
があれば夫婦で是非とも参拝したいと思っております。企画し
ていただいた役員様には、何かとお世話になりましたことを心
より御礼申し上げます。

※Salamoto (サラマトポ)・・・Japanで
ありがたいの意味

合同会議

財政赤字の解消が急務

中間報告を提言

平成28年度当初からスタートした滋賀県遺族会財政事業改革特別委員会は、6回の委員会を開催し、事業の見直し・経費削減策等の検討を進めてきており、平成28年12月4日に開かれた平成28年度第2

回中間報告を提出し、英霊の存在感に拍車をかける等の課題と共に大幅な財政赤字を抱えるに至っている。これらの事柄を

見直すため、今回の特別委員会が設置されたものである。提言「中間報告」は、今一度原点に立ち返り、戦没者遺族への慰藉と英霊の顕彰、このことを次世代への継承を中心に据えた、時代に見合った事業の推進・活動を見直し、単年度ベースで約800余万円(平成27年度決算)の財政赤字を解消することが必要であると報告した。

今回の提言「中間報告」は、今年度末の滋賀県遺族会理事會での真剣な議論を踏まえて、新年度(平成29年度)の事業計画・予算に反映される見込みである。提言「中間報告」の概要は別表の通りである。

(広報 田中正彦)

またまだと思っていましたのに80歳になつてしまいました。考えてみますと、自分の心臓は昼夜休まず脈拍を80年間続けたのです。これは1分間の脈拍を70回とすると、70回×60分×24時間×365日×80年で、生まれてこのかた約30億回にもなります。これには感謝感謝です。私の父が戦死したのは、昭和20年3月で40歳でしたから2倍の年月を生かさずともらっていることになりま。

これから元気で末永く活動を続けて欲しいと願うばかりです。

滋賀県遺族会は、戦没者遺族が幾多の苦難の中でいち早く立ち上がって組織を結成して、戦没者遺族の処遇改善や英霊の顕彰運動等を展開し、戦没者遺族の福祉増進・慰藉救済や世界の恒久平和に寄与する運動など大きな実績を挙げてきた。一方では、高齢化進展による遺族会員数の減少と会費収入の減額、長期的に繰り返される事業の情性化、原点を見失い、風化しつつある英霊の存在感に拍車をかける等の課題と共に大幅な財政赤字を抱えるに至っている。これらの事柄を

見直すため、今回の特別委員会が設置されたものである。提言「中間報告」は、今一度原点に立ち返り、戦没者遺族への慰藉と英霊の顕彰、このことを次世代への継承を中心に据えた、時代に見合った事業の推進・活動を見直し、単年度ベースで約800余万円(平成27年度決算)の財政赤字を解消することが必要であると報告した。

今回の提言「中間報告」は、今年度末の滋賀県遺族会理事會での真剣な議論を踏まえて、新年度(平成29年度)の事業計画・予算に反映される見込みである。提言「中間報告」の概要は別表の通りである。

(広報 田中正彦)

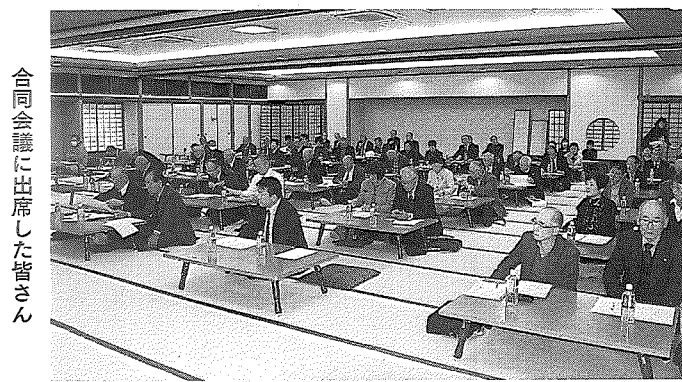
1975年、ボルネオへ政府の遺骨収集団として参加させてもらったのは41歳。1976年には、守山市遺族会青年部長、滋賀県遺族会平和委員長に、以来、企画委員長、広報委員長、総務委員長、評議員等、約40年間遺族会活動には青年部・青年部から参加してきたことになり感慨無量です。

しかし近年、人の名前が思い出せなかつたり、携帯を何処に置いたか?出かけて戸締りをしたかな?等、毫厘したのかと思うことがあるようになりまし。

大切なことを忘れて、人に迷惑をかけるような今までの以上に気を付けなくてはなりません。

一方、この歳になつても好奇心は失わず持ち続けたいものです。「なににな」という野次馬根性、体力に合った範囲での歩行や湖でのカヌーツーリング、本箱がいつぱいになつたので出来るだけ図書館で借りての読書に励んでいるところで

脳梗塞を患って身



合同会議に出席した皆さん

| 財政事業改革中間報告 (概要項目) | |
|-------------------|---------------------------------|
| 番号 | 項目 |
| 1 | 滋賀県戦没者追悼式典参列者旅費助成の見直し |
| 2 | 滋賀県英霊塔(膳所公園)月並み法要の見直し |
| 3 | 大津市陸軍墓地内、滋賀県遺族会建立慰霊碑前での彼岸法要の見直し |
| 4 | 女性研修会の見直し |
| 5 | 海外戦跡慰霊巡拝事業の見直し |
| 6 | 海外戦跡慰霊巡拝事業参加者補助金支給額の見直し |
| 7 | 次世代戦跡訪問研修事業の見直し |
| 8 | スポーツの集い事業(平成26年度から廃止済み) |
| 9 | 滋賀県遺族大会の見直し |
| 10 | 沖縄近江の塔参拝事業の見直し |
| 11 | 慰霊と平和祈願リレー行進事業の見直し |
| 12 | 靖國神社昇殿参拝事業の見直し |
| 13 | 機関誌「遺族の友」発行の見直し |
| 14 | 県議会議員、国会議員との懇親会(遺児研修事業)の見直し |
| 15 | 遺族会事務局経費の見直し 旅費、印刷機コピー機、人件費など |
| 16 | 会費の歳入 特別会員、遺児会員、一般会員、青年会員など |

(平成28年12月4日滋賀県遺族会合同会議資料)

体が不自由な友人は、天気が良い日には滋賀県内のJR駅の一つ一つに下車して、近辺を出来る限り歩いての散歩をしています。昼間はコンビニで軽食を買って歩いて、道中気に入ったところで食べた。近辺の大衆食堂で食べるという事です。これもいいなと思いました。

遺族会員も、個人差はあってもだんだん老化していきま。今後の遺族会活動は、なんとか我々の身の丈に合った活動を続ける一方、次世代に引き継いで行くことが大切であり、これは日本の平和を維持してゆくことに貢献することになると思ふ今日です。

同じ思いを繰り返さない

甲賀市甲南町遺族会 会長 大治 正雄

安全保障関連法に基づき、国際の貢献の一環として平成28年11月20日、陸上自衛隊600人余の部隊が南スーダンの首都、ジュバへ国連平和維持活動(PKO)に参加するため出発いたしました。

この新しい部隊には「駆けつけ警護」と言われる任務が付与され、武装勢力から襲撃されたPKO要員の保護や宿営地を守ることが、従来の現地の人々の生活を守る・道路を造ることなど以外に追加されています。隊員の皆さんは、様々なケースを想定し、訓練をされていることだと存じますが、想定を外れることが今や世界の常識になってきています。南スーダンにはアフリカの内陸にある国でもあり、部隊へ送る食料や医療品などの

補給も充分可能なのでしょうか。また今回の派遣からは「共同防衛」により、武器の使用が認められています。武器の使用という言葉の中に、「日本もついに戦争に一歩足を踏み入れた」という言葉が流れます。隊員の中には一人でも血を流すことがあってはならないし、併せて現地の人々を傷つけることが無いように祈ります。

出発にあたり、小さな赤ちゃんを抱いたお母さんや家族等の人が、半年間の別れの涙で見送る姿がテレビに映し出されました。隊員皆さんの無事な帰国を願ってやみません。

私たち遺族は、先の大戦で大切な家族を失いました。見送っておられた家族の心の中を推し量ることはできませんが、私たちのような悲惨さや惨めさを子や孫が二度と味わうことがないよう重ねてお祈りいたします。そして一歩でも世界平和が前進することを願っています。

続いて、平成28年12月末、安倍首相がハワイ真珠湾へ赴き、オバマ大統領と共に真珠湾アリゾナ記念館に献花をされました。我が遺族会も、両首脳が戦役で多くの犠牲者を出した地を共に相互訪問する政治的決断に至ったことを歓迎したい思いであります。

日米両国の中には、「何を今更」という厳しい意見も一部ありますが、かつて敵対国だった米国は、今や日本にとって揺るぎない同盟国であります。今回の両国の戦役地訪問の価値と意義は、過去も現在も未来も変わらない世界平和への理念であることを切望するものであります。

北方領土視察団

一日も早く日本の領土に

愛荘町遺族会 前田 いそ

北方領土四島の返還が実現することは、日本の国民の心からの願いですが、今も日本の領土に戻らず、34回も返還要求運動を続けなければならぬとは残念なことです。納沙布岬四島のかけ橋には、返還の実現への固い思いを象徴するためのモニユメントの下に「祈りの火」が燃え続けています。

国後島を望む根室市の北方四島交流センターでの元島民の方の講話で、「交流

遺族会の皆様には、輝かしい新春をお迎えされたことと拝察いたし、大慶至極に存じます。昨年は我が国の遺族会にとりまして、開戦以来75年間、過去に例のない大きな歴史的变化がございました。

皆様がご承知のごとく、オバマ米大統領が平成28年5月、安倍晋三首相と共に大統領として初めて広島を訪れ、献花の後、核なき世界に向けたメッセージを訴え、今も多くの日本人の胸に刻まれております。

オバマ大統領と共に真珠湾アリゾナ記念館に献花をされました。我が遺族会も、両首脳が戦役で多くの犠牲者を出した地を共に相互訪問する政治的決断に至ったことを歓迎したい思いであります。

愛知郡遺族会 会長 珠久 清次

遺族会の皆様には、輝かしい新春をお迎えされたことと拝察いたし、大慶至極に存じます。昨年は我が国の遺族会にとりまして、開戦以来75年間、過去に例のない大きな歴史的变化がございました。

皆様がご承知のごとく、オバマ米大統領が平成28年5月、安倍晋三首相と共に大統領として初めて広島を訪れ、献花の後、核なき世界に向けたメッセージを訴え、今も多くの日本人の胸に刻まれております。

オバマ大統領と共に真珠湾アリゾナ記念館に献花をされました。我が遺族会も、両首脳が戦役で多くの犠牲者を出した地を共に相互訪問する政治的決断に至ったことを歓迎したい思いであります。

おひさしなみ

「高森部隊」の遺品引渡式

米原市遺族会 会長 瀬戸川 恒雄

平成28年12月22日、「高森部隊」が使用していた自転車のプレートが73年ぶりに、遺族（米原市菅江の高森慶司さん）のもとに届けられました。届けた人は、広島県福山市で市議会議員をされている太田祐介さんです。

遺族ではありませんが、福山連隊の跡地に住宅を建てられ、その縁で南海支隊戦友遺族会支部長として活躍されていました。2年前に、パプアニューギニアに戦跡巡拝され、その時、現地で「高森部隊」と書かれたプレートを見つけられました。商品として売られていたが、遺品を売買することに違和感を感じたものの、そのまま現地に置いて



「高森部隊」が使用していた自転車プレート（上）米原市役所で行われた引渡式に参列した皆さん（下）

帰られました。平成28年7月に再度現地を訪問し、現金での売買ではなく、ノートパソコンと交換して日本に持ち帰って来られました。早速、「高森部隊」について、いろいろ調査され、隊長の高森八郎氏の出身が滋賀県であることを突き止められました。

この度、遺品のプレートを遺族の方に引渡すための引渡式が、岸田孝一滋賀県遺族会長、平尾道雄米原市長、千種恵美子米原市健康福祉部長の参列のもと、米原市役所で行われました。

隊長の高森八郎氏は、明治44年米原市菅江に生まれ、昭和12年神照小学校を退職し、陸軍幹部候補生の試験に合格。第4師団第4連隊に入隊し、中国を転戦後、南方諸島に赴任。昭和18年1月12日にパプアニューギニアのギルワにて戦死されました。遺族の話によると、隊長として隊

涙を誘った朗読劇

高島市遺族会 川合 良雄

平成28年8月11日、高島市民会館に於いて、高島市主催、高島市教育委員会・高島市社会福祉協議会・高島市遺族会・高島市青年協議会主催による「平成28年度高島市戦争犠牲者を追悼し平和を誓う市民の集い」が開催された。

市内各地から遺族をはじめ市民や来賓の皆さん約600人が参加。開会のことば、黙祷に続いて、福井正明高島市長は式辞で「戦後、早や71年という大変長い年月が過ぎ去ろうとしている。先の大戦では、旧高島郡出身者2千人を超える皆様をはじめ、大変多くの方が戦場で

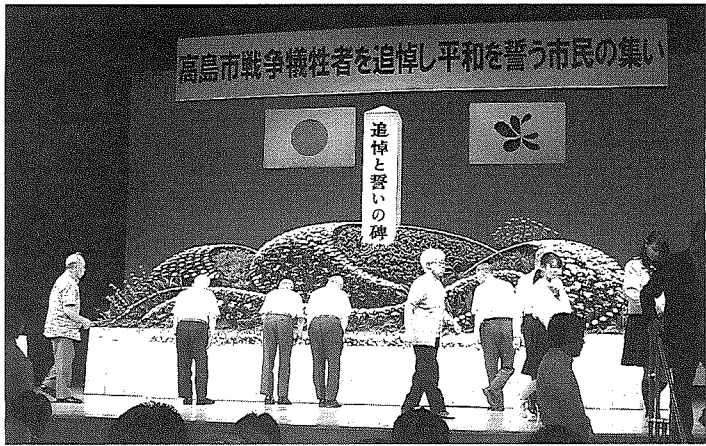
あるいは戦禍で倒れられ、あるいは戦後遠い異郷の地で最期を遂げられた。ふたたび人類が戦争という愚弄の道を歩むことがないようにとは、世界人類が共通した願いである。先人から築き上げられたこの高島市をより一層、地域の皆さんが安心して、心豊かに暮らしていただける地域づくりをしていかなければならないのは、私たちに課せられた使命であると認識している」と述べられ

員から尊敬され、慕われ、酒を飲むといつも、故郷に残した許嫁と結婚する喜びを語っておられたとか。そんな夢も空しく南海の白い砂に埋もれてしまっても、今一度、夢にまで見た祖国菅江に帰りたい深い思いがプレートに乗り移り、73年の時を越えて帰って来られました。

また、砲弾がまともに当たり、体は木端微塵に飛び散りましたが、長く飢えと負傷の痛みと、苦しみの地獄をさまよう兵士からは、隊長の戦死は羨ましいと声が出るほど悲惨な現状が伝わってきました。鉄であればとくに腐食していましたが、銅版のため腐食を免れ、ペイントで書かれた文字まで鮮明に読み取れるなんて、まさに奇跡的なことです。今更ながら、平和のありがたさをしっかりと受け止め、遺族として次世代に平和のありがたさを訴え続けて行かねばなりません。

次に、秋永安次高島市議会議長、清水鉄次滋賀県議会議員、海東英和滋賀県議会議員から追悼のことばをいただいた。

恒例の滋賀県遺族会事業の一つである、次世代戦跡訪問研修参加者の体験発表では、一井久雄高島市遺族会長から参加した小中学生7人が紹介され、3人が発表を行った。それぞれが「国を守るために亡くなった多くの人のことを決して忘れてはな



献花する参加者の皆さん

今の平穏に感謝 菩提寺に「裏山門」を寄進

彦根市高宮遺族会 北川 國男

平成25年1月、私は政府主催の東部ニューギニア戦没者遺骨帰還団の一員として参加し、父の戦没地ウエワクを訪れました。父は、私が生後3カ月の時、29歳で戦死したと聞いています。その地は、倒木や巨岩で覆われた道なき道の泥土でした。

父の戦死後、小学5年生から新聞配達などで家計を助け、苦勞して夜間高校を卒業し、無事勤め先を退職しました。最近では、遺族会の事業・活動にも積極的に参加できることを感謝し、先日、父の71年、母の7回忌、祖母の37回忌を共に勤めさせていただきました。また息子の厄年を祈願し、関係各位、皆様のご協力を得て、菩提寺の真宗大谷派「妙蓮寺」に「裏山門」を寄進させていただきました。



寄進した「裏山門」の前に立つ北川國男さんと妙蓮寺住職

これで南国で眠る父の霊も、少しは安心していただけるものと考えています。合掌

らないと思う。そして、二度と戦争を繰り返してはならないと思う」と語った。

休憩をはさんで、朗読劇「夏雲は忘れない」（広島市の原爆投下から復興まで）が、高島市青年協議会、ふれあいゴスペルクラブの皆さんで上演された。

朗読劇的一幕。「娘が門を出るとき、なぜか出難い様子でした。虫の知らせだったのでしようか、一度は引き返したんです。「お母ちゃん、私今日休みたい」しかし私は「今日出席すれば明日は休みでしょう。元気出していきなさい」と励まししました。それでも彼女はしばしば振り返りながら、いかにも元氣なさそうな重い足取りで出かけ、そして、原爆

の犠牲になりました。防空頭巾を肩に、もんぺをはいた後ろ姿が、今もハッキリと目に浮かんでくるのです。休んでは叱られると思ったのでしよう。それが可哀そうで、可哀そうでなりません。死に行かせたようなもの、今でも出かけて行く姿が目に焼き付いて離れません。未だに遺骨を胸に抱いてやるのができません」というくだりは会場の皆さんの涙を誘った。

続いて、参加者全員が献花。最後に、演劇集団つばめ、滋賀県立高島高等学校演劇部、高島市青年協議会の皆さんによる「核兵器を廃絶し恒久平和を希う都市宣言」の朗読があり、市民の集いは成功裏に終了した。

伝えていこう 平和祈念式

長浜市遺族会 会長 西川 満

今回で第6回となった実行委員会
(長浜市・長浜市社会福祉協議会・
長浜市遺族会・長浜市連合自治会の



長浜市少年少女合唱団の平和を願う讃歌

4者で構成、代表は長浜市長)によ
る長浜市平和祈念式が平成28年11月
5日、虎姫文化ホールにて午前9時
30分から11時までの短い時間ではあ
りましたが、極めて厳粛に行われま
した。

式典は、国歌斉唱に始まり、黙禱、
藤井勇治長浜市長の式辞、西川満長
浜市遺族会会長の追悼の辞、柴田清行
長浜市議会議長の追悼のことは、粉
山一芳長浜市連合自治会会長の平和都
市宣言、全員による献花へと続きま
した。

平成28年3月、次世代戦跡訪問研
修で鹿児島知覧方面へ参加した中学
生3人の発表では、戦争の悲惨さ、
愚かさを肌で感じたことの感想をそ
れぞれの気持ちを込めて発表されま
した。

式典には、国会・滋賀県議会・長
浜市議会の各議員をはじめ、滋賀県
遺族会からは、的場恵美子副会長を
来賓に迎え、遺族会員、各町自治会
長のほか60人余の小中学生にも参列
いただき、総勢約300人で会場は

ほぼ満席となりました。

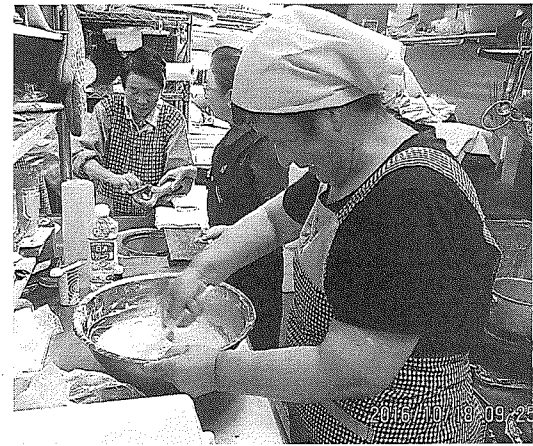
今後もちょうとした式典を通じ、戦争
を知らない若い世代の方々に戦争の
悲惨さ、愚かさを伝えて行くことが
遺族会の役割であろうと痛感した次
第であります。

お母さんの喜ぶケーキ作り

草津市遺族会連合会 会長 木村 正昭

草津市遺族会連合会女性部は、研
修と親睦を兼ねてケーキ(マドレー
ヌ)作りに挑戦。塚村康子女性部員
指導のもと、重田美津子女性部長、
福井敏子副会長、女性部員5人の参
加で賑やかに取り組み、約200個
のマドレーヌが見事に完成し、思わ
ずみんなの歓声が上がりました。

それから茶話会になり、市内在住
の5人のお母さんに花とメッセージ
を添えて、感謝とお見舞いを兼ねて

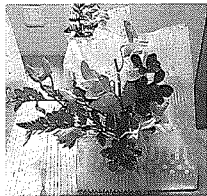


ケーキ作りに挑戦する草津市遺族会連合
会女性部の皆さん

お母さんからのお礼

この度は、心のこもったケーキを
いただき、ありがとうございます。
思いもかけないプレゼント。うれし
かったですし、おいしく完食させて
いただきました。女性部の皆さんお
一人お一人の顔を思い浮かべ、感謝
感謝です。元婦人部の皆さんにお出
会いしなくなって久しいですが、私
は週2回デイケアへ行っています。
おかげさまで元気に暮らさせていた
だいています。日頃、菊池みつさん
はどうされているか?福谷ちかさん
は元気にされているか等、気になり
つつもお出会いする機会が持たず、
娘を介して情報を
聞き、安堵してお
りました。

女性部の皆さん
本当にありがとう
ございました。
(西川 マス)



お母さんへのフレゼ
ント

和気あいあい 女性部座談会

湖南市遺族会 女性部長 長谷川あさ子

石部、甲西が合併して湖南市にな
り、市の女性部長を引き受けて早や
10年が経ち、滋賀県遺族会の女性委
員会は6年になります。その間、い
くつかの市では女性部だけでも年に
一・二度会合をもって奉仕をしたり、
食事をしたりしておられる様子です。
私たちは滋賀県遺族会の事業に参加
しているだけです。是非一度集ま
らなければと思ひ、遅ればせながら
平成28年9月14日、湖南市社会福祉
協議会の一室で初めての女性部会を
開催しました。

山村聡湖南市遺族会副会長、的場

語る戦争の悲惨さを

米原市遺族会 青年委員 松居 清弘

平成28年12月10日、「第一回米原
市青年委員会の集い」が滋賀県立文
化産業交流会館で開催され参加しま
した。米原市遺族会の役員、平尾道
雄米原市長、木津美智子滋賀県遺族
会青年部会担当副会長が参加されて
の集いになりました。

滋賀県でも、平成27年4月に青年
委員会が発足し、その際に私は青年
委員の登録を行いました。しかし、
登録を済ませただけで、遺族会への
集まりへの参加は今回が初めてとな
りました。

今回の集いの内容は、「今後の青
年部の活動について」です。戦後71
年が経過し、戦争を体験していない
世代が人口の8割を占め、今の若い
世代では戦争が遠い昔の歴史になり、
戦争体験者の話を聞くことも数少な
いものになってきました。戦争が風
化しつつあるように思います。

今回の集いで青年部は、これから
の遺族会活動の継承と戦争体験を次
の世代に確実に伝えることが必要な
ど、意見交換されました。我が家
は両親が海外戦跡慰霊巡行に行つて
戦争の悲惨さを伝えてくれます。今
から少しずつでも、悲惨な戦争があ
ったことを次世代に伝えられるよう
にできればと思います。

機会があれば、私も祖父の亡くな
ったミヤンマーの海外戦跡慰霊巡行
に行つてみたいと思ひます。
今後、青年部の参加者がどんど
ん増えて活動が活発になればと思ひま
す。

新事務局員紹介

森野 愛子
市川 奈穂



岡田 富美さん(96歳・近江八幡市)

お母さんをお訪ね

母は健在
ですが、今
流行の認知
症のベテラ
ンです。5
年間デイ
サービスに
通い、1年前から完全療養生活を
送っています。いきなりの認知4
の段階になり、歩くことができず
車椅子での移動の体になってしま
いました。

それは、初冬の寒くなった頃、
あんなにも食いの良い母が、食

富美おかあちゃんのこと

昔ならその後は老衰ということに
なりますが、現在では「魔法の
ジュース」により命をとりとめま
した。いきなりの認知症により、
今思えばこれが「さよならの無い
別れ」だったかも知れません。残
念でなりません。
しかし、さすが母です。この
2ヶ月前チャッカリ、県の表彰を
受け、代表して賞状を受ける役ま
でもらい、晴れ姿の最後でした。
元気だった頃、会話が合った頃
のこともだんだん薄れて行く中
で、私が昭和19年に生まれて、父
の戦死が昭和20年。私が4歳の頃
祖母が死に、私の結婚までそれこ

そ二人きりの戦後の貧しい生活の
中、5反弱の農地を近所や親類の
援助で守ってきました。

(近江八幡市 岡田 伴之)

※追伸 お元気で過ごされていた
岡田富美さんが、12月24日急逝さ
れました。この記事を読んでいた
だけずに残念です。心よりご冥福
をお祈りいたします。